

～ともに生きる～

北海道の労働と福祉を考える会

〈発行所〉〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1北星学園大学 木下武徳研究室
 〈電話〉090-7515-8393 〈Webサイト〉<http://roufuku.org/>



2007年度活動計画

- 5月 札幌市との意見交換会
炊き出し・総合相談会
- 6月 北大祭
炊き出し・総合相談会
- 7月 寄せ場交流会参加
拡大夜回り
- 8月 炊き出し・法律相談会
出張夜回り
ホームレス概数調査
- 9月 札幌市との意見交換会
炊き出し・総合相談会
- 10月 炊き出し・総合相談会
- 11月 拡大夜回り
- 12月 炊き出し
クリスマス朝回り
- 1月 ホームレス概数調査
- 2月 炊き出し
- 3月 総会

新年度 事務局 あいさつ

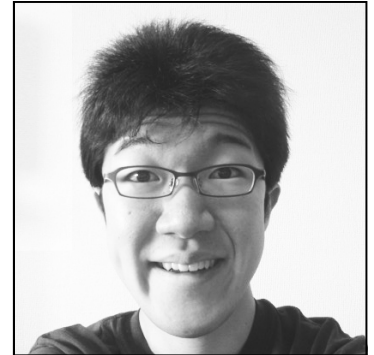
4月に新事務局長になりました長谷川喜哉です。遅くなりましたが、今年度最初の会報ということで、ご挨拶させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

さて、労福会が発足して8年目となる今年度は、昨年末の椎名恒代表の逝去に伴う、代表と副代表の交代もあり、労福会の新たなスタートの年といえます。また、ホームレスのみが販売員となれる雑誌「ビッグイシュー」の札幌での販売、道内外の支援団体との交流が活発になってくるなど、札幌のホームレスの方々や労福会を取り巻く環境は、日々刻々と変化しています。ですから、夜回りや炊き出し、生保同伴など今までに行ってきた活動を継続しつつも、会の活動を見つめなおし、労福会として今後何ができるのか、ということを考える機会を積極的に持っていきたいと考えています。

今年度特に力を入れてやっていきたいことは2つあります。

ひとつは札幌の野宿者の実態について、また労福会の活動について多くの人に知ってもらうための広報活動です。冬の寒さの厳しいこの札幌にも野宿を余儀なくされている人がいるということを知らない人はたくさんいます。また、このような人々に対する偏見もあります。この現実を多くの人に知ってもらうということは大切なことであると思います。私たち労福会にとって、この厳しい現実を世間の人々

07年度事務局
長谷川喜哉



に発信し知ってもらうということは重要な活動のひとつだと思います。

もうひとつは、夜回りです。夜回りが定期的に行われるようになって2年がたちました。今ではこの夜回りが活動の中心であるといっても過言ではありませんが、夜回りを始めた当初とはスタッフも入れ替わり、なぜ夜回りをするのか、といった根幹の部分から話し合うことの必要性も感じています。また中心部以外にも野宿者はいるという調査の結果も出ていますので、積極的に郊外の野宿者のもとへ行く機会をもうけるなど、この活動をさらに活発なものにしていきたいと考えています。

そして、これらの活動を通じて、これからホームレスのおじさんやおばさんと近い労福会であり続けたいと思います。

(長谷川 喜哉)

木下 新代表 就任あいさつ

北海道に来て、また労福会に関わってまだ3年が過ぎたところですが、これまで労福会創設以来、ご尽力されてきた椎名恒先生が逝去されたことにともない、代表就任となりました。今年の3月に作成された『現実をわがものに～椎名恒教授追悼文集』からもわかりますように、椎名先生の労福会に対する思い入れは一入でした。2007年1月の札幌市での調査では、ホームレスの人数は132人と昨年より大幅に増えています。ホームレスの支援を中心に北海道の労働と福祉を考え、活動している労福会

はますます重要になってきています。前代表の意志を受け継ぎ、労福会の活動を通して、寒さの厳しい北海道で不本意にホームレスとなって路頭で迷うことなく、安心して生きていけるように、一步一步頑張っていきたいと思います。これは1人では進めることはできませんので、是非多くの方と一緒に歩んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。(木下武徳)



毎月第1・3・5金曜日
夜回り
事務局会議

土曜日(不定期)
学習会
生保同伴検討会

川村 新副代表 就任あいさつ

毎朝、JR札幌駅構内を横切って地下鉄東豊線で職場にむかいますが、駅構内でいわゆるホームレスのひとたちを多く目にします。椅子に座って、抱えた大きな荷物に顔をうずめていたり、階段を下りたところの、まだ暗い地下街の端で地べたに座って(というより横になって)いたり。ご承知のとおり、駅は深夜になると閉鎖するわけですが、とりわけ冬の夜はどうしているのか。毎日の食事はどうしているのか。廃品回収など何か小銭でも稼げるような仕事はあるのか。そんなことがふと頭をよぎります。ほんの一瞬ですが、彼らが現在のような境遇に陥るまでの道のりは様々で、それこそ「貧困の構成要素は経済的でもあれば心理的でもあり、個人的でもあれば社会的でもあり、

過去のことであれば現在のこともある。どの問題もその他の影響を増幅させ、すべてがしつかりと結びついているため、一つの不運がもともと原因からずっとかけ離れた結果を伴う連鎖反応を引き起こすことがある」(『ワーキング・ブア』)、そんな状況を生きてこられたのでしょうか。その意味では、これは誰にでも起こりうる問題なのだ、そう確信して私はこの活動に参加しました、、、と言えればよいのですが、その認識レベルには程遠く、この事態はナントカシナケバならないのではないかと、むむむ俺はナントカしたいぞ、という実に漠然とした、頼りない思いで参加することになりました。どうぞよろしくお願い致します。(川村 雅則)



Page 2

新規会員・スタッフは随時募集しています。皆様からのカンパもお願いしております。いただいたカンパは、野宿当事者支援のための活動資金となります。よろしく願います。詳しくは事務局までご連絡ください。

※会費・カンパの送り先

〈郵便振替口座番号〉

02730-0-37163

〈口座名称〉

北海道の労働と福祉を考える会

嶋田 新副代表 就任あいさつ

労福会および関係者のみなさま、こんにちは。現在、札幌学院大学という大学に勤務しています。嶋田佳広と申します。このたび、歴史と実績ある労福会の副代表を仰せつかることとなりました。

社会保障のなかでも、生活保護やホームレスの問題は、まさに“社会の底”を映す鏡です。そこが抜ければ抜けるほど、社会全体が崩れていきます。人間が人間らしく生きていくことすら脅かされる社会で、うわべに再チャレンジを唱えても、いっこうに説得力ありません。逆にいえば、こうし

た労福会の活動を通して、社会の歪みやきしみを浮かび上がらせることで、いったい何が本当に問題なのかを抉り出すものだと思います。すなわち、労福会の存在と活躍は、それ自体崇高で敬虔な人間の連帯精神の発露であると同時に、すぐれて社会的な意義を有しているのです。

「弱者に手をさしのべること」に逆風が強まりがちな昨今ですが、だからこそ、いろいろなことにチャレンジしていきましょう。今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。(嶋田 佳広)



炊き出し来場者の食事風景
(おにぎり・豚汁・果物)

労福会あの日あの時 ④

～ミートソースの思い出～

私は1年程前に会を退き、現在関東地方で会社員をしている者です。現役時代には会計係や副事務局長を務めさせていただきました。今、活動に参加したことにより大学生活が充実したという思いと、せっかくのキャンパスライフを棒に振ってしまった！という思いが激しく交錯しています。

思い出話をひとつ紹介させていただきます。ある時期、私は料理を作ることに凝り始め、授業にもろくに出席せずパスタ作りに没頭しました。ひとり黙々と料理を作り自分で食べるということを1ヶ月程繰り返した後、私は「自分の料理をもっとたくさんの人に食べてほしい」という健全な欲求が生まれてくるのを感じました。

すかさず、私は「今度の炊き出しでは自分達で食事を用意すべきだ」と提案しました。反対意見もありましたが、「ボランティアメンバー自身で作った食事の方が喜ばれるに決まっている」「自分達で用意した方が安上がりだ」「そして何より美味しい」というお得意のパワーロジックにより、私の提案は受け入れられることになりました。しめしめと思ったのも束の間、ある重大な問題に直面しました。予算が絶

対的に足りないのです。この予算では私の十八番であるミートソース入りサンドイッチを披露することはできません。泣く泣く私はミートソースのディティールをいくつか省略しました。玉葱の量を従来の半分にし、本来であれば生のトマトを使うところを廉価な缶詰で代用しました。

炊き出し当日、別なメンバーが作った簡易なホットドッグと私が一晩かけて作ったサンドイッチがテーブルに並べられました。前者は絶大な人気を誇りあつという間に「完売」しました。後者は「ちょっとしょっぱいね」「何なのこれ」等という評価を頂戴し、結果的にボランティアメンバーの胃袋におさまるものも少なくありませんでした。けれども、当会の心優しいメンバーから「おつかれさま」というねぎらいの言葉を数多く頂戴し、なんとなく報われた気がしたのです。

(寺島 祐一)

〈次号予告〉 労福会報 第17号では5,6月の炊き出し、及び6月に行われた北大祭の報告を中心にお送りする予定です。